

# 役員所感

直前理事長 内山 勇人

## <基本方針>

アメリカではCHANGEを合言葉に、建国以来初の黒人大統領が誕生した2009年。遅れること7ヶ月後、わが国でも戦後60有余年に亘り政権与党に有り続けた自由民主党が少数野党に転落しました。奇しくも、変化が訪れた両国に共通する過去に例を見ない歴史的な大変革は、正義に事を欠いた金融施策や、美意識に反する旧態依然とした政治体質に対して審判が下り、この正しさの希求へのパラダイムシフトは、世の中の大きなルールを異質なものと変化をもたらした「変容」の結果であるとさえ云われています。

重厚長大産業や、時として環境保護の観点から疑問を抱かれていた公共事業依存体質からの脱却。そして、新たな産業分野の創造をも約束したグリーン・ニューディール政策に象徴される環境負荷の低減に向けた地球規模的な取り組みは、新たなルールの下、新たな社会が芽生え、新たな価値判断の基準で世の中が構築される途のひとつであります。さらには、政治や行政という組織の形に捉われない、志を持った社会起業家と呼ばれる個人が、地域や社会の問題を解決すべく個人シンクタンクとして情報の受発信をしながらネットワークを構築し、持続可能なより良い未来に向けて活動する様は、新たな知価社会の到来を予見させるものであります。理事長所信にも謳われる「時代の転換期」を迎えている現在、時代を生き抜くテーマは崇高な義の精神に裏打ちされた「正しさ」や「美意識」を自らが追い求めながら、社会を構成する最小単位である“個人”から積極的に変化を遂げていく、その姿に以外にはほかなりません。ドッグイヤーと形容される情報伝達のスピード化社会の現在、過剰氾濫気味に様々な媒体から発信される情報に流されることなく、自らの信念を基に、感性を磨き、J Cの社会開発運動を通じた進化を体現していきましょう。

損か得かの判断基準ではなく、まちづくりを標榜する団体としてどれだけ地域との深化を図ることができたか。正義に裏打ちされた正しい判断、正しい反省を繰り返し、地域におけるインパクトを組織の真価を計る指標として、一人ひとりが己の心火を灯しながら、『義の都上越～義の心溢れ高い精神性が息づくまち～』の創造に向けて手を携えて行動しましょう。